

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

令和2年の再編統合から5年が経ち、全学年とも4学科7クラス体制が定着してきた。今年度は本校創立130周年記念の年であり、忙しい年となった。コロナは落ち着き、毎日の授業や部活動はもちろん、体育大会や文化祭等の学校行事、また各科の研修旅行等についても通常通り実施することができた。

重点項目のうち、「学習指導（教科指導）」と「学校生活（健康管理）」、「特別活動（特別活動指導）」の3つは、評価をAとした。授業でICTやタブレットを活用する教員が9割を超え、生徒に分かりやすく深い学びに繋がっている。また、面談を通しての生徒指導や健康・安全に関する情報提供、講演会、SNS利用に関するHRなどの取り組みは、心身ともに健康な生徒の育成につながっている。県レベルを超える大会への出場団体数は目標を大幅に超える29部・同好会にのぼった。

その他の重点項目はいずれも評価をBとした。「特別活動（読書指導）」については、年14回のお便りの発行や図書委員の研修、教養講座の開催など活発な活動ができていますが、図書原簿のデータ化の完成には至らなかった。

「進路支援（進路指導）」では、進路指導についての生徒の満足度が目標の80%を下回る項目があったが、資格や試験の合格率は非常に良い結果が得られた。

「学校生活（生徒指導）」におけるスマートフォンやインターネットの1日の平均利用時間に関しては2時間以内の生徒の割合が50%未満となりわずかに目標に及ばなかった。

「その他（保護者や地域との連携）」については、PTA会報や「福高だより」の発行、PTA研修会もほぼ予定通り実施することができた。ホームページでの情報更新と内容の充実が今後の課題である。

今年度の取り組みの結果を総合的に考察することで、次年度の取り組みの更なる向上につなげていきたい。

7 今年度の重点次年度へ向けての課題と方策

本校は、普通科、国際科、農業環境科、福祉科の4学科からなる、生徒数約750名の大規模校である。「学び合い高め合おう」というスクールモットーにふさわしく、各学科の特徴、また、大規模校ならではの特色を生かしつつ、学習や部活動、特別活動等を通して主体的・意欲的そして協働的に取り組む生徒の育成を目指したい。

学校の課題解決には、生徒と教職員が一丸となって取り組むとともに、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。これまで地域に根ざした教育活動を行ってきた本校として、教育諸活動や生徒の活躍の様子などの情報共有を図りつつ、広く世界へ発信することを見据えた取り組みにも力を入れていきたい。

8 学校アクションプラン

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習指導（教科指導）	
重点課題	教育クラウドやタブレットPCを活用した授業方法の実践研究 互見授業による教員の指導力向上（協働的な学びの促進に向けて）	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程や観点別評価の導入に伴い、実践を具体的に進めていく。 ・若手教員が多く、授業の進め方や授業課題の与え方などに不安を感じている教員も少なくない。経験のある教員から有効な助言や指導が希求とされている。 ・生徒の学力層が幅広くなってきているために一斉指導に困難を感じる教員が多い。また、学習意欲が低い生徒や、義務教育段階の学習内容が定着していない生徒も多い。個々の生徒の実態を把握し、生徒が意欲を持って主体的に学ぶよう、授業改善、指導の工夫をしていく必要がある。 ・4学科が併設している本校の利点を生かし、他学科や他教科の授業を参観することで教員の授業の幅や質を高めていくことが必要である。教員自身が指導法を見直し、主体的・対話的で深い学びとなるよう絶えず工夫していくことが肝要である。全生徒がタブレットPCを1人1台持つことを効果的に生かす指導研究を今後も続けていく必要があり、ICT機器の効果的な活用方法を実践研究するなど、研修の積極的な実施が望まれる。 	
達成目標	① 教育クラウドを活用した学習指導やタブレットPCを活用した授業を行った教員の割合	② 互見授業および校内外の研修会等への、教員一人あたりの参加回数
	① 85%以上	② 4回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の研修会を行い、基本操作を全教員ができるようにする。 ・各教科で授業での活用方法や問題点などを研究し、活用を推進する。 ・研究授業を行い、検討を通して指導スキルを高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開期間を学期ごとに設定し、同じ教科だけでなく他教科・他学科の授業も参観しやすい環境を整える。 ・若手教員研修を企画し、先輩教諭の助言を継続して行う。 ・新教育課程やICT・新たな学び関連の研修会等の情報をグループウェアや連絡会で共有し、参加を呼びかける。
達成度	授業内で資料等をICTやタブレットを用いて効果的に提示している教員の割合 90.0%	教員一人あたり参加回数平均 約 4 回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に対して、校内のみならず校外のICT研修会にも積極的に参加するように促し、教員間でICTによる効果的な活用指導例を共有することで校内での活用促進を図った。 ・ICT機器の活用によって、教員による教材提示、個に応じる学習、調査活動、思考を高める学習、表現・制作、家庭学習、発表・話し合い、協働での意見整理、協働制作、学校の壁を越えた学習など、生徒にとって分かりやすい指導、深い学びにつながっていると、教員・生徒の大半が実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年も授業公開期間を設定し、教科外の授業も積極的に参観するよう呼びかけを行った。 ・若手教員と先輩教員とでペアを組み、学習指導等の研鑽を図った。 ・研修会の案内や先進的な取り組み事例などを教員に紹介した。 ・12月に若手研修会を実施した。
評価	A	・教材研究・指導準備にICTを活用する教員が9割を超え、知識・技能の定着、意見共有、グループでの話し合いや協働的な学習に向けたICT機器の活用が増加することで、分かりやすく、深い学びの実践につながっている。
学校関係者の意見	ICT技術はどの業界でも課題となっており、高校での指導・活用は大変助かる。生徒がデジタルとうまくつきあえる力を伸ばし、社会に出て自分で管理・対応できるように、先生方もお忙しいとは思いますが、よりよい指導に向けて研修を行っていただきたい。また、今後は生成AIの利用について、生徒に対してのルール等の検討が必要であろう。	
次年度へ向けての課題	9割以上の教員が授業や教材研究にICTを活用しているものの、生徒に対して授業内でICTを活用させる指導には自信がなく不慣れと感じる教員が2割程度いる。ICTの活用方法を教員間で共有し、研修会を増やして学び合うことで、生徒に対してのICT活用の指導力向上を図りたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活（生徒指導・健康管理）	
重点課題	福高生として誇りを持ち、主体的に考え、判断し行動する態度の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にスマートフォンやインターネットなどの長時間使用によって生活のリズムを崩したり、SNS を不適切に使用した結果、校内にとどまらず校外の他人とのトラブルに発展したりするケースも見られるようになっている。 ・心身の不調により、遅刻や欠席を繰り返す生徒がどの学年にも存在する。 ・感染症予防および身体不調への継続的な具体的対策として、学習環境を整えたり、健康管理をするなど自己管理能力を育成する必要がある。 	
達成目標	① 自律週間中の、学習に無関係なスマートフォンやインターネットの1日の平均利用時間が2時間以内	生徒に健康・安全・感染症予防に関する情報を提供する回数
	達成できた」と答える生徒が1・2年生で50%以上、3年生で60%以上	年間10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ① 適宜、自律を促す啓発活動を行うとともに、自律週間後の振り返り時に使用実態を調査する。 ② 教育相談室、学年、教科担当との連携を密にして生徒支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康・安全に関する意識の高揚を図るため保健厚生委員会と連携して講演会等を企画する。 ・「保健だより」等で、生徒が健康問題に適切に対処するための情報を適宜発信する。
達成度	① 1日の平均利用時間が2時間以内の生徒の割合 1年生47% 2年生43% 3年生51%	<ul style="list-style-type: none"> ① 講演会の実施 文化展での展示 ② 保健だより発刊や校内放送による感染症予防のための周知情報提供10回 達成度100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月に統一ホームルームを実施し、各クラスでスマートフォン・ネットの利用に関して、使いすぎや誤った使い方への弊害に関する考察をした上でクラスルールを決め、1・2学年は10月に再度ルールを見直した。 ① 「ネット利用自律週間」を設定し、啓発ポスターを全クラスの教室や廊下に掲示した。 ② 心身の不調等で学校に足が向きづらくなった生徒に対してはケース会議を行い、チームで対応を協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に関する講演会、性に関する講演会、薬物乱用防止の講演会を実施 ・生徒保健委員会による保健だよりの発刊（7回） ・保健だより臨時号の発刊 感染症予防に関する速報（1回） ・文化展での生徒保健委員会による「絵本読み聞かせ～1人1人大きな自分～」をテーマに、読み聞かせ動画の制作および上映 立ち読みコーナーで絵本展示 ・3学期より、インフルエンザ予防啓発を促す校内放送を毎日昼食前に実施
評価	生徒指導部 B 保健厚生部 A	<ul style="list-style-type: none"> ・掲げた目標にどの学年もわずかに及ばず達成できなかったが、昨年度と比較すると1年生で5%、2年生で3%、達成度が増加した。 ・「手洗いおよび換気の励行」等、感染対策を取りながら通常の行事を実施できるよう尽力した。また、心、性、薬物乱用防止の講演会を実施し、正しい知識を得る機会を設定することができた。 ・多様性に関する内容を文化展・保健だより両方で取り上げた。
学校関係者の意見	・スマートフォンの使用（使いすぎの防止、正しい付き合い方）に関しては、保護者と学校が連携して子供たちに働きかけるような手立てを講じて啓発していく必要がある。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・ネットのオーバーユースの弊害についてしっかりと考察する時間を設けた上で、ネット利用自律週間に対する意識を高める方策が必要である。 ・一人一人の行動がクラスや学年の学習環境や学習意欲につながる。自己肯定感をもたせ、健康的で前向きな高校生活を送れるようサポートする必要がある。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	<p>「総合的な探究の時間」や進学講話・進路セミナー等行事の充実（普・国・農・福） 生徒への情報提供や面接の充実（普・国・農・福） 検定資格の取得に向けた意識の向上と合格者数の増加（国・農） 介護福祉士国家資格取得（福）</p>	
現 状	<p>・多様化していく生徒に対して、指導の個別化が必要である。 ・広く多くの情報の中から自己の将来像を描いてほしいが、生徒個人で新しい情報を探すことは困難なこともあるため、より効果的な情報提供や面接指導が必要である。 ・国際科では、「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく伸ばし、活用できるコミュニケーション能力を育成するために、授業内でプレゼンテーション、エッセイ、スピーチ、ディベート、ディスカッションなどの活動を積極的に行っている。また、4技能の伸びを測定するために、毎年全員GTECを受験し、さらに、多くの生徒が英検に挑戦している。 ・農業環境科では、農業技術検定と危険物取扱者の学科全員合格、測量士補と造園施工管理技術検定の土木類型での全員合格を目標に学習しており、余力のあるものはさらに各自で資格・検定の合格に挑戦し、アグリマイスターやとやまの高校生マイスターの取得を目標に取り組んでいる。 ・福祉科生徒の進路は多岐にわたるが、「介護福祉士国家試験合格」を目標に掲げる生徒が多く、生徒の目標を実現させるための継続的な指導・支援が必要である。また、近年の介護人材不足により、専門的知識の習得のみならず、実践力を身につけた質の高い介護福祉士の育成が求められている。</p>	
達成目標	<p>① 以下の観点での生徒の満足度 ・先生は生徒の学力向上を目指して努力している。 ・進路についての面接がよく行われている。 ・進路に関する情報が豊富である。 ・進学講話・学年集会は進路を考える上で役立っている。 ・「総合的な探究の時間」は進路を考える上で役立っている。</p>	<p>② 卒業時に英検2級相当以上の英語力を身につけている生徒の割合（国際科） ③ 卒業時までに3つ以上の全国に通用する各種資格・検定に合格した生徒の割合（農業環境科） ④ 介護福祉士国家試験の合格率（福祉科）</p>
	<p>① 80%以上</p>	<p>② 70%（国際科） ③ 100%（農業環境科） ④ 100%（福祉科）</p>
方 策	<p>・進路セミナーや大学・企業研修を効果的に活用する。 ・進路に関する集会や面接を充実させる。また、「総合的な探究の学習」の時間を効果的に活用する。</p>	<p>・総合実習、外部講師の授業、インターンシップ、職業講話などを活用し、進路意識の向上を図る。 ・目標を持って資格取得試験に向かうよう、指導法を工夫し学習習慣を身につけさせる。 ・関連科目の担当者同士の連絡を密にし、資格取得の意義を生徒に理解させ、意欲を引き出すとともに学習内容や生徒の理解度等の把握に努め、適切な課題等に取り組みさせる。 ・福祉施設等と連携し、体験活動等の機会を設け、生徒に活動への参加を促す。</p>
達成度	<p>① 進路に関するアンケートより ・5項目の平均（82.1%） ・学力向上に向けての先生の努力度（95.3%） ・進路についての面談回数の満足度（77.5%） ・進路についての情報の豊かさ（81.2%）</p>	<p>②国際科で英検2級相当（GTEC960）以上の英語力を身につけている生徒は、クラス全体の41%であった。準1級合格者は1名であった。 ③今年度の3年生は、卒業までに3つ以上の資格・検定を取得・合格した生徒の割合は、100%であった。 ④介護福祉士国家試験合格率は未定（合格発表は3月24日）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・進路における進路講話の貢献度 (81.0%) ・進路における探究の時間の貢献度 (75.5%) 	
具体的な取組状況	<p>① 保護者や卒業生、砺波青年会議所の方を講師に招き1年進路セミナー15講座を開講し、一人2講座を受講した。</p> <p>1学年普通科・国際科の生徒対象に、南砺市バスツアーを実施した。</p> <p>各学年とも保護者会・懇談会を実施し、進路のしおり等を懇談会で活用した。</p> <p>富山大学と富山県立大学の大学出張講座に、2学年の生徒が参加した。</p> <p>外部講師の進学講話を各学年1回以上実施した。</p>	<p>② 資格取得に向け、授業の冒頭にスピーキング、長期休業中に補習、個別に面接練習を実施した。</p> <p>③入学時より農業環境科の生徒に資格取得への意識を高く持たせるとともに、アグリマイスターやとやま高校生マイスターの取得を目標に持たせ、意欲的に各種の資格や検定、専門科目の学習に向き合えるように取り組んだ。</p> <p>④年間を通して、学習時期に適した課題内容及び課題量を明確に提示し、確実に取り組めるように工夫した。模擬試験の結果から、生徒の習熟度や苦手分野を把握した。習熟度に応じて、放課後に個別指導や少人数でのグループ学習等を行った。</p>
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の南砺市バスツアーにより、南砺市の企業に関する生徒の興味関心が増加した。 ・1学年の進路セミナーでは、職業を含めた進路への知識・関心を深めた。 ・大学出張講座により、大学の研究内容を知ることにつながり、進路選択に役立った。 ・進路に関する資料は、生徒・保護者の進路に関する知識を深めることに貢献できた。 ・外部講師の進学講話を各学年1回実施することで、進路に関する知識を深め、学習意欲向上につながった。
学校関係者の意見	南砺市バスツアーなど企業連携が進んでいるように感じる。探究活動に関して、企業紹介等々協力出来ることがあれば連絡してほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事について、生徒の実態に合わせた効果的なものになるように工夫する。 ・個々の生徒の進路実現に向け、その目的に合わせた自発的な学習の機会が与えられる仕組み作りを行う。家庭学習の重要性を意識させ、生徒の学習意欲や理解度等を把握し、効果的な学習指導を考える。 ・国際科の卒業生の状況から、達成目標を再検討する。 ・普通科国際科の探究活動を充実させるための仕組みづくりを行う。 ・資格や検定の学習活動を通して学び得た知識や技術、学習スタイルを生徒一人ひとりの今後の進路や生活等において活かすことができるという実感を持たせられるような指導の在り方について考える。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（特別活動指導・読書指導）	
重点課題	自主態度と思索する心の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の88%が部活動に参加している。県レベルを超える大会等に出場する団体数はここ数年増加している。 ・合宿や研修会を通して部活動の充実に努めている。 ・生徒会執行部を中心に、体育大会や文化展などの学校行事をはじめ、校歌応援歌練習や各種委員会活動において、徐々に主体的に取り組むようになってきている。 ・強化練習や合宿等の実施等、各部活動の活動内容の見直し・改善によって、学校全体の部活動の活発化を図っている。 ・生徒に読ませたい本や購入したい本が多数あるが、閲覧室は新しい本を置く余裕がなく、書庫も空きスペースがない状況で、蔵書の除籍・廃棄を進める必要がある。 ・読書を活発にするためには、まず多くの生徒が図書室に来ることが先決である。授業等の調べ学習に利用してほしいが、Wi-Fiで接続できないため利用をあきらめる生徒も多数存在する。 	
達成目標	① 県レベルを超える大会等への出場団体数	② 情報発信 ③ 蔵書の除籍・廃棄
	① 17団体以上	② お便り（「啓明館だより」、「はばたき」、「啓明」）の発行 年14回 ③ 図書原簿のデータ化の完成
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・強化練習や合宿の実施等、各部活動の活動内容の見直し・改善によって、さらなる部活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊書等の情報が生徒に伝わりやすいように、お便り（印刷物）の発行に加えて、ポップ作成と掲示による視覚的な広報活動を進める。 ・効率的に蔵書の除籍・廃棄に取り組むために、図書原簿のデータ化を進め、廃棄する。 ・Wi-Fi等の環境整備を図る。
達成度	県を超える大会に出場した部・同好会は延べ29（うち全国大会9 地区大会20）	② お便りの発行 年14回（予定） ③ 図書原簿のデータ化は、遅れ気味
具体的な取組状況	各部が実施した校外合宿は延べ12回 実技指導・講演等は延べ3回 （生徒会費から部活動強化振興費として年間80万円を助成）	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業中の生徒課題を、「感想文」「感想画」「ポップ作成」の3つにした。 ・お便りの発行は、予定通り14回。 ・南砺市の図書館との連携事業で図書委員会の研修を行った。 ・ソフト「エリーゼ エッグ」を導入した。 ・Wi-Fi等の環境整備を、ネットワーク管理者や事務部に依頼した。
評価	<p>特活部 A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を大幅に超えた29の部・同好会が県を超える大会に出場した。 ・強化練習・合宿・講演・実技指導などが活発に行われ、部活動の活性化につながった。 <p>図書部 B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南砺市と連携事業で図書委員に対する研修が今年度も実施されてよかった。 ・ソフト「エリーゼ エッグ」の導入により、今後、書籍の受け入れが簡略化され、作業効率がよくなる。 	
学校関係者の意見	書籍の寄贈の場合、廃棄することを明示して受け取ったらどうか。	
次年度へ向けての課題	<p>特活部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒減、生徒会費減の中、学校行事や部活動の運営について、見直しと活性化を両立させる方策を考えなくてはならない。 <p>図書部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や教員がWi-Fiをしたいと訴えているので、Wi-Fi とうの環境整備が急務である。 ・読書量アップのため、読書会や夏休みの課題の精選の必要がある。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和6年度 南砺福野高校アクションプラン - 5 -					
重点項目	その他（保護者や地域との連携）				
重点課題	保護者・地域との連携・協力による、開かれた学校づくり				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から、PTA総会やPTA研修会など、コロナ禍以前の活動に戻った。PTA役員の方々と話し合い、PTA役員の負担感を軽減したり、より意義のあるPTA活動となるように検討・模索していく必要がある。 ・広報誌や情報ツールなどを活用して、保護者の方々にPTA活動や学校についての関心の高揚を図り、相互の連携向上を図る必要がある。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① ホームページの情報更新や内容充実</td> <td>② 学校についての関心の高揚</td> </tr> <tr> <td>① 各種委員会への役員出席率 70%</td> <td>② 「福高だより」の発行 7回</td> </tr> </table>	① ホームページの情報更新や内容充実	② 学校についての関心の高揚	① 各種委員会への役員出席率 70%	② 「福高だより」の発行 7回
① ホームページの情報更新や内容充実	② 学校についての関心の高揚				
① 各種委員会への役員出席率 70%	② 「福高だより」の発行 7回				
方 策	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ・ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・福高メールでの情報提供の充実を図る。 ・PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に部会を行い、計画的に進める ・保護者が興味、関心を持てるよう内容を精査する。 ・PTA役員や行事等の齎に保護者から意見を集め、関心度を調べる。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ・ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・福高メールでの情報提供の充実を図る。 ・PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に部会を行い、計画的に進める ・保護者が興味、関心を持てるよう内容を精査する。 ・PTA役員や行事等の齎に保護者から意見を集め、関心度を調べる。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ・ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・福高メールでの情報提供の充実を図る。 ・PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に部会を行い、計画的に進める ・保護者が興味、関心を持てるよう内容を精査する。 ・PTA役員や行事等の齎に保護者から意見を集め、関心度を調べる。 				
達成度	<table border="1"> <tr> <td>・役員出席率 70%</td> <td>・福高だより発行回数 6回（3月発行分は拡大版として2回分に相当）</td> </tr> </table>	・役員出席率 70%	・福高だより発行回数 6回（3月発行分は拡大版として2回分に相当）		
・役員出席率 70%	・福高だより発行回数 6回（3月発行分は拡大版として2回分に相当）				
具体的な取組状況	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報「いわお」を7月と12月の2回発行した。第2回では福高生の挑戦したいことについての特集を設定し、生徒のアンケート結果をもとに総務委員で座談会を行い、活発に意見交換をした。 ・PTA研修会では本校OGでフリーアナウンサーの三都井美衣氏を招き、全校生徒を交えた講演会を行い大好評だった。 ・PTA総会で、R7年度よりPTA役員地区委員の選出数の削減が決定した。 ・安心安全メールで保護者の方々と情報共有や緊急連絡を随時行った。 ・各委員会の前に事前打ち合わせを行ったことで、限られた会合時間の中で効率よく協議や情報共有をすることができた。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・総務部会を行事ごとに実施し、行事の内容や仕事の分担について打ち合わせた。 ・福高だよりの発行は、1月末現在5回行った。2月以降に2回発行する予定である。時期ごとの学校行事などを取り上げ、学校での活動の様子が保護者に伝わるように心がけた。昨年度途中から紙ベースでの配付発行を改め、保護者に安心安全メールで案内し、ホームページで公開しており、より保護者の目に触れやすくなった。 ・行事や会合の際に直接お話ししたり、感想文を執筆していただくことで、PTA役員や参加者から意見や感想をいただいた。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報「いわお」を7月と12月の2回発行した。第2回では福高生の挑戦したいことについての特集を設定し、生徒のアンケート結果をもとに総務委員で座談会を行い、活発に意見交換をした。 ・PTA研修会では本校OGでフリーアナウンサーの三都井美衣氏を招き、全校生徒を交えた講演会を行い大好評だった。 ・PTA総会で、R7年度よりPTA役員地区委員の選出数の削減が決定した。 ・安心安全メールで保護者の方々と情報共有や緊急連絡を随時行った。 ・各委員会の前に事前打ち合わせを行ったことで、限られた会合時間の中で効率よく協議や情報共有をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部会を行事ごとに実施し、行事の内容や仕事の分担について打ち合わせた。 ・福高だよりの発行は、1月末現在5回行った。2月以降に2回発行する予定である。時期ごとの学校行事などを取り上げ、学校での活動の様子が保護者に伝わるように心がけた。昨年度途中から紙ベースでの配付発行を改め、保護者に安心安全メールで案内し、ホームページで公開しており、より保護者の目に触れやすくなった。 ・行事や会合の際に直接お話ししたり、感想文を執筆していただくことで、PTA役員や参加者から意見や感想をいただいた。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報「いわお」を7月と12月の2回発行した。第2回では福高生の挑戦したいことについての特集を設定し、生徒のアンケート結果をもとに総務委員で座談会を行い、活発に意見交換をした。 ・PTA研修会では本校OGでフリーアナウンサーの三都井美衣氏を招き、全校生徒を交えた講演会を行い大好評だった。 ・PTA総会で、R7年度よりPTA役員地区委員の選出数の削減が決定した。 ・安心安全メールで保護者の方々と情報共有や緊急連絡を随時行った。 ・各委員会の前に事前打ち合わせを行ったことで、限られた会合時間の中で効率よく協議や情報共有をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部会を行事ごとに実施し、行事の内容や仕事の分担について打ち合わせた。 ・福高だよりの発行は、1月末現在5回行った。2月以降に2回発行する予定である。時期ごとの学校行事などを取り上げ、学校での活動の様子が保護者に伝わるように心がけた。昨年度途中から紙ベースでの配付発行を改め、保護者に安心安全メールで案内し、ホームページで公開しており、より保護者の目に触れやすくなった。 ・行事や会合の際に直接お話ししたり、感想文を執筆していただくことで、PTA役員や参加者から意見や感想をいただいた。 				
評価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報の発行やPTA研修会の実施、福高だよりの発行もほぼ予定通りに実施できた。PTA総会やPTA研修会等のPTA関係の各行事や活動の際、役員をはじめ多くの方々に参加していただき、好評であった。 ・今年度は創立130周年記念事業が行われ、PTA役員は賛助会の役員として保護者会員は賛助金の協力等で、事業の成功に大いにご協力をいただいた。 ・役員の方々から意見を受けて、各委員会活動の見直しを行い、PTA総会で来年度からの役員定数の削減を決定した。 </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報の発行やPTA研修会の実施、福高だよりの発行もほぼ予定通りに実施できた。PTA総会やPTA研修会等のPTA関係の各行事や活動の際、役員をはじめ多くの方々に参加していただき、好評であった。 ・今年度は創立130周年記念事業が行われ、PTA役員は賛助会の役員として保護者会員は賛助金の協力等で、事業の成功に大いにご協力をいただいた。 ・役員の方々から意見を受けて、各委員会活動の見直しを行い、PTA総会で来年度からの役員定数の削減を決定した。 		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会報の発行やPTA研修会の実施、福高だよりの発行もほぼ予定通りに実施できた。PTA総会やPTA研修会等のPTA関係の各行事や活動の際、役員をはじめ多くの方々に参加していただき、好評であった。 ・今年度は創立130周年記念事業が行われ、PTA役員は賛助会の役員として保護者会員は賛助金の協力等で、事業の成功に大いにご協力をいただいた。 ・役員の方々から意見を受けて、各委員会活動の見直しを行い、PTA総会で来年度からの役員定数の削減を決定した。 				
学校関係者の意見	地域連携は、保護者のみならず広く周知されると良い。地域団体や行事との連携、ボランティア活動などのアクションが広い可能性を持っている。				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員の協力を得ながら、保護者の参加意欲と満足度のより高い活動を目指す。 ・PTA活動の際に、アンケートや聞き取りを通じて、保護者や参加者の意見を収集し、今後の活動に生かす。 ・PTA役員の定数を減らしたことによるPTA活動への影響について、PTA役員会や総務部会で検証し、引き続き適正な役員数と役員の負担感の軽減について探る。 ・今後PTA活動としての地域連携の可能性について役員会で相談する等、検討したい。 				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)